

令和 7 年度第 1 回大阪府環境放射線評価会議 議事録

日時：令和 7 年 7 月 1 5 日（火）15：00～16：00

場所：災害対策本部会議室（大阪府新別館北館 1 階）

1. 開会

2. 議事

（1）令和 6 年度環境放射線監視結果について

○事務局（司会）：令和 7 年 3 月 31 日をもちまして、関西光量子科学研究所の高倉委員が辞任されましたので、後任として関西光量子科学研究所の斎藤委員にご就任いただいております。

○事務局（司会）：大阪府環境放射線評価会議設置要綱第 3 条第 1 項の規定により、これ以降の議事につきましては、村田委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局：令和 6 年度環境放射線監視結果について説明

【質疑応答】

○村田委員長：最初に月間平均値があって、その次に最大値があります。3 か所の結果が書いてありますが、月間平均値は泉佐野が少し低いです。しかし最大値はすべて同じです。これは測っている場所の状態がほかと違うなど何かありますか。また、この数値は何地点かの平均値ですか。

○事務局：5 地点の月間の平均値になりますので、その地域の特徴となりますと、個別の局のデータを細かく見ないと泉佐野だけ少し低くなっている理由が分からないかと思います。

○村田委員長：分かりました。数値が十分小さいので問題ないですけど、最大値のほうが同じような数値になっている、というそれだけのことなので特に問題はないと思います。

○村田委員長：1 6 ページにウランとストロンチウムの記載がありますが、この注 1 に、文献より、と書いてありますが、これは何ですか。

○事務局：表の下のところ注で書かせていただいております。注 1 につきましては、日本原子力研究開発機構の資料の中に載っていたものを使用しております。もう一つが、放射能測定法シリーズの中に記載のあったデータを使

用しております。

○村田委員長：ストロンチウム分析法ですか。

○事務局：はい、そうです。

○村田委員長：日本原子力研究開発機構の文献とは何ですか。

○事務局：ウランと環境研究懇話会というものがございまして、その中で配られていた資料の中に載っていたものとなります。

○村田委員長：環境研究懇話会は公開文書なのでしょうか。

○事務局：公開されているものです。

○村田委員長：はい、分かりました。

○事務局：画面に出しますので少しお待ちください。

○村田委員長：本体の報告書の方に載っていますね。

○事務局：文献の名称だけ書かせていただいております。

○村田委員長：そうですか。書いてあるのならいいです。

○事務局：こちらの資料になります。一番上のデータ、圃場の土壌というところを今回、参考の文献として使わせていただいております。

○村田委員長：0.67と記載されているものですか。

○事務局：そうです。

○村田委員長：なるほど。分かりました。

○村田委員長：3月は大気安定度が高いとおっしゃっていましたが、大気安定度が高いというのはどういう意味になりますか。

○事務局：風速も測っておりまして、無風の状態であったというのを確認しています。3月に年間最大値が固まっていた理由を調べましたが、理由は確認できませんでした。結果として全て無風状態で大気安定度が高いという確認ができたということになります。

○村田委員長：平均した風力が十分に他の月と比べて低かったということですか。

○事務局：そうです。

○村田委員長：完全に無風の日がない、という意味ではないのですね。平均してということですね。

○事務局：そうです。無風というよりは正確に言うと微風なのですけれども、年間で一番大気安定度が高かった日だったということになります。

○村田委員長：はい、分かりました。

○平尾委員：今の関連ですが、大気安定度については、風速だけではなく日射量から安定度を決めているという理解でよろしいでしょうか。

○事務局：そのとおりでございます。

○平尾委員：なので高い、低いというよりも、安定側にいたという理解でしょうか。

○事務局：はい。

○村田委員長：では、この内容で公開していただくということですか。

○事務局：そうです。大阪府のホームページのほうで年報を公開したいと思います。

（２）令和６年度放射線管理等報告書について

○各事業所：令和６年度放射線管理等報告書について説明

【質疑応答】

○村田委員長：排水口のトリチウムが４月から６月で 0.23 Bq/cc ですが、これは最大値ですね。そのときに平均値が LTD になっています。これはなぜですか。

○京都大学：４月から６月の間に何回か放流があるのですが、そのうちの一番高いときが 0.23 Bq/cm^3 で、ほかは検出限界未満でした。

0.2 が検出限界値ですがけれども、平均すると 0.2 よりも低かったので平均値は LTD になっています。

○村田委員長：そういう書き方なのですね。

○京都大学：はい。

○村田委員長：排水のベータは具体的には何かというのは分からないですか。

○近畿大学：はい、自然界のものなので分かりません。

○村田委員長：分かりました。ガスはアルゴンですか。

○近畿大学：はい。

○村田委員長：原燃工さんの場合、ほとんどゼロとなると思いますが、遡ると出たときもあったのでしょうか。

○原子力燃料工業（株）：弊社、工事をしていた時期がございまして、ウランの加工をしていましてしたが、排気ダクトの工事を行ったときに、そのダクトについていたものがあり、検出限界ぎりぎりのところで数字が出たということがございます。

（３）各原子力事業所における近況等について

○各事業所：原子力事業所における近況等について説明

【質疑応答】

○村田委員長：最初の事故というのは停止にはなっていないのですか。

○京都大学：停止したと思います。

○村田委員長：ということは計画外停止ということになりませんか。

○京都大学：停止後に発見しました。

○村田委員長：停止後に発見したということですか。停止してみたら少量の漏れが発見されたということですね。

○京都大学：そうです。停止後の点検をしたときに発見しました。

○村田委員長：それから、次の項目は計画外停止ですか。

○京都大学：はい。

○村田委員長：これは結局、原因は分からないということになるのでしょうか。

○京都大学：予備用の電源のUPSが、普段はバイパスモードとして接続していないのですが、立ち上げたときにインバーターモードというのに切り替わります。その切り替えをするためのリレー回路の設定が、切り替え時間を設定してしまっていて、通常は切り替えが設定時間内に終わるのですが、このときは終わらなくて、その結果切り替わっていなかったということになります。

○村田委員長：なるほど。

○京都大学：もう一回やってみたら切り替わったので、余裕を持って切り替えができるように時間設定を調整しました。

○村田委員長：なるほど。これは規制庁に説明していますね。

○京都大学：そうです。はい。

○村田委員長：なるほど。それなら大丈夫です。

○村田委員長：人数が書かれてありますが、コロナで人が減ったと思うのですが、その後も例えば昨年と比べたら変わらないとか、増えたとか、どのような感じですか。

○京都大学：そうですね。コロナの頃よりは戻ってきています。

○村田委員長：元に戻ったという感じですか。

○京都大学：はい。

○村田委員長：燃料を交換されますが、今後の動きがどのようなものかというのを、何か情報をお持ちでしたら教えてください。

○近畿大学：近畿大学では60年前から高濃縮燃料を使っておりますが、米国と日本の取決めにおきまして、低濃縮化することが決定しております。それを踏まえて、低濃縮化に取り組んでいるところです。ただ、これはまだまだ先の話ですので、まずは、原子力規制庁に低濃縮燃料を入れるといった申請を行っているところです。この件に関しましては、東大阪市と情報共有しており、進展があれば報告いたします。

○村田委員長：ありがとうございました。おそらく大変な作業が起こってくると思います。次回の会議の際にもどんな感じですかという話になると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(4) その他（モニタリングポストの更新について）

【質疑応答】

○平尾委員：現在の切替え工事の際に2つの旧タイプと新タイプが並行して観測される時期はございますか。

○事務局：現在は新しいモニタリングポストに通信機能はないのですが、測定器としては動いており、内部にデータが集まっております。恐らく2か月ぐらいいは横の場所にありますので、並行測定のような形で、今後データの検証には使えると思っております。

○平尾委員：通常こういう切替えのタイミングで値が大きく変わるということがございますので、お互いの整合性を確認するのがよろしいかと思えます。

○村田委員長：新しいモニタリングポストについて1点お伺いしたいのですが、災害に対する脆弱性というか、大きな地震が起こったときに、データが送られてこない、データが回収できない、ということについて、対応というのは何かされていますでしょうか。

○事務局：新しいモニタリングポストを設置するに当たりましては、規制庁の設置に関するガイドライン（「モニタリングに係る設備機器の耐震安全性に関するガイドライン」）というものがございまして、耐震基準について、ガイドラインの中で、Sクラスということで、いわゆる地震でも問題なく倒壊しないという形で設置しております。

参考までに石川県で地震があったときも、このような同じようなタイプのものが設置されていたのですが、そもそも地面が隆起した場所というのはどうしようもなかったのですが、それ以外の局については通信が駄目になったところはありませんでしたが、モニタリングポストそのものが特に使えなくなったということはなかったと聞いております。

○村田委員長：能登半島のときもモニタリングポストの欠測があったというニュース報道があったと思うのですが。

○事務局：そうですね。それは通信系がやられたからと聞いております。

○村田委員長：なるほど。これも同じものなので通信は途絶えるかもしれないけど、データは取っているということですね。

○事務局：そうですね。通信につきましても二重化ということで、LTE回線と衛星回線の2つ備えておりまして、通常LTEで通信していますが、基地局が何らかの理由で使えなくなったときには、衛星回線を使ってデータが取れるようとなっております。

○村田委員長：ということは、基本的に欠測しないということになりますか。

○事務局：そうですね。極力欠測しないように対策は取っています。

○村田委員長：これにて終わりにしますので、事務局にお返しいたします。

○司会：以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。